



安行小だより

安行小学校 6月号

令和4年6月1日

目指す学校像

よさを認め、学び合い高め合い、やる気と笑顔あふれる学校



気にかけてみる

校長 春川 嘉孝

ある日のこと、私の前にいた方が会計をしていました。現金を入れたのですが、なかなか機械が反応しない。おつりが出てこない。店員さんと呼んでいましたが、忙しそうに対応できない状態でした。私はとなりで会計をすませました。その方たちのやりとりが気になったので「どうしましたか？」と声をかけました。どうやら、現金を入れる前に現金のボタンを押していなかったことがわかりました。そこで、「現金」のボタンを「押す」ことを伝えると「ホッ」とした表情をして、聞きなれない言葉で話してきました。きっと「ありがとう」と言っているのだと感じて「どういたしまして」と返しました。

今、若者の中で「ヤングケアラー」という問題があります。家族の世話をするなど学業などの時間や友達との時間をつくることができなかつたり、時には働くこともできなかつたりといった問題です。今年の4月に厚生労働省が調査した結果では「小学6年生の6.5%（15人に一人）が世話をする家族がいる。このうち平日1日に世話をする時間が7時間を超える児童も7.1%いる」という結果が発表されました。

子供が子供らしく学校に通い、友達と遊び、元気に明るくすごせることは、誰もが願っていることです。ただ、それが叶わない子供がいることも確かなことです。「ヤングケアラー」に焦点をあてた番組がありました。ヤングケアラーを支援するNPOの代表の方がこんな話をしていました。

「こういった話を聞いて、自分が何か支援していこうとか、何とかしようと思わないことが大切なんです。ただ、気にかけてあげる。最近どう？とか大変だよね？とか声をかけていくことが一番なんです。」

気にかけるということは、その人を大切に思っているよというメッセージなのだと感じます。

先月は、天候により皆様には大変ご心配をおかけいたしました。が、「安小オリンピック2022」を開催しました。校庭で元気に走る子供の姿。団体競技がスムーズに進行できるよう教職員が指導する姿。できるようになったり、勝ったり、負けてしまったりしたときの子供たちの声。練習の日々が懐かしく感じられました。「安小オリンピック」二日に渡っての開催になりましたが、保護者の皆様の前で、精一杯競技する子供たちの姿があり、頑張る姿を見せたい子供、我が子を応援したい保護者の思いが感じられました。この姿は、いつの時も変わりません。「子供は子供らしく、将来を担う金の卵」学校・家庭・地域が手を取り合って健やかに、伸びやかに成長させていきたい。

6月12日は「児童労働世界反対デー」新型コロナウイルス感染症の影響で児童労働者数が800万人増加し、1億6000万人ともいわれています。世界の10人に1人が児童労働にあたっているそうです。

クラスのお友達も近所の方も、遠い会ったことのない人たちのことも「気にかけてみる」それは、自分を大切にしていることにつながると感じます。